

② 幼稚園専門教科問題の解答について（注意）

1. 解答はすべて、別紙のマークシートに記入すること。
2. マークシートは、電算処理するので、折り曲げたり、汚したりしないこと。また、マーク欄はもちろん、余白にも不要なことを書かないこと。
3. 記入は、HBまたはBの鉛筆を使って、ていねいに正しく行うこと。（マークシート右上の記入方法を参照）消去は、プラスチック消しゴムで念入りに行うこと。
4. 名前の記入 名前を記入すること。
5. 教科名の記入 教科名に「幼稚園」と記入すること。
6. 受験番号の記入 受験番号欄に5けたの数で記入したのち、それをマークすること。
7. 解答の記入
 - ア. 小問の解答番号は1から70までの通し番号になっており、例えば、25番を

25

 のように表示してある。
 - イ. マークシートのマーク欄は、すべて1から0まで10通りあるが、各小問の選択肢は必ずしも10通りあるとは限らないので注意すること。
 - ウ. どの小問も、選択肢には①、②、③……の番号がついている。
 - エ. 各問いに対して一つずつマークすること。

（マークシート記入例）

フリガナ	コウベタロウ		
名前	神戸太郎	教科名	幼稚園

数字で記入……

受験番号					小問番号	解答記入欄	小問番号	解答記入欄	小問番号	解答
						[1] - [25]		[26] - [50]		[51]
1	2	3	4	0	1	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	26	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	51	0 0 0 0
0	0	0	0	0	2	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	27	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	52	0 0 0 0
0	0	0	0	0	3	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	28	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	53	0 0 0 0
0	0	0	0	0	4	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	29	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	54	0 0 0 0
0	0	0	0	0	5	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	30	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	55	0 0 0 0
0	0	0	0	0	6	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	31	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	56	0 0 0 0
0	0	0	0	0	7	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	32	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	57	0 0 0 0
0	0	0	0	0	8	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	33	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	58	0 0 0 0
0	0	0	0	0	9	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	34	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	59	0 0 0 0
0	0	0	0	0	10	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	35	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	60	0 0 0 0
0	0	0	0	0	11	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	36	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	61	0 0 0 0

【1】 次の（ア）～（オ）の各法令に関する内容として適切なものを①～⑨から選び、番号で答えよ。

- （ア）学校教育法 （イ）学校教育法施行規則 （ウ）児童虐待の防止等に関する法律
（エ）教育基本法 （オ）日本国憲法

- ① 学校の設置者は、感染症の予防上必要があるときは、臨時に、学校の全部又は一部の休業を行うことができる。
- ② 国及び地方公共団体は、家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者に対する学習の機会及び情報の提供その他の家庭教育を支援するために必要な施策を講ずるよう努めなければならない。
- ③ 何人も、児童の健全な成長のために、家庭及び近隣社会の連帯が求められていることに留意しなければならない。
- ④ 教育並びに保育、介護その他の社会福祉、医療及び保健に関する職務に従事する者並びに教育等に関する関係機関及び関係団体は、食に関する関心及び理解の増進に果たすべき重要な役割にかんがみ、基本理念にのっとり、あらゆる機会とあらゆる場所を利用して、積極的に食育を推進するよう努めるとともに、他の者の行う食育の推進に関する活動に協力するよう努めるものとする。
- ⑤ 幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。
- ⑥ すべて国民は、法律の定めるところにより、その能力に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する。
- ⑦ 幼稚園の毎学年の教育週数は、特別の事情のある場合を除き、三十九週を下つてはならない。
- ⑧ 幼稚園の施設及び設備は、指導上、保健衛生上、安全上及び管理上適切なものでなければならない。
- ⑨ 国及び地方公共団体は、児童の保護者とともに、児童を心身ともに健やかに育成する責任を負う。

（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）	（オ）
1	2	3	4	5

【2】 次の（ア）～（コ）は、「幼稚園教育要領（平成29年3月）第2章 ねらい及び内容」に述べられている5領域の「内容」の一部である。どの領域に属するかを①～⑤から選び、番号で答えよ。但し、同じ選択肢を複数回使用してもよい。

- （ア）生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。
- （イ）生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- （ウ）よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。
- （エ）親しみをもって日常の挨拶をする。
- （オ）身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。
- （カ）身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄せつなどの生活に必要な活動を自分でする。
- （キ）かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。
- （ク）共同の遊具や用具を大切にし、皆で使う。
- （ケ）先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。
- （コ）生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。

- ① 健康 ② 人間関係 ③ 環境 ④言葉 ⑤ 表現

（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）	（オ）
6	7	8	9	10
（カ）	（キ）	（ク）	（ケ）	（コ）
11	12	13	14	15

【3】 次の(1)～(3)は、「幼稚園教育要領解説(平成30年3月)」に述べられているものである。(ア)～(オ)にあてはまる語句を①～⑨から選び、番号で答えよ。

(1) 幼稚園は、(ア)の一環として、幼児期にふさわしい教育を行うものである。その教育が小学校以降の生活や学習の基盤ともなる。小学校においても、生活科や総合的な学習の時間が設けられており、(ア)全体として総合的な指導の重要性が認識されているといえる。

(2) (ア)全体では、いかにして子供の(イ)を育むかを考えて、各学校の教育課程は編成されなければならない。幼稚園教育は、幼児期の発達に応じて幼児の(イ)の基礎を育成するものである。特に、幼児なりに好奇心や探究心をもち、問題を見いだしたり、解決したりする力を育てること、豊かな(ウ)を発揮したりする機会を提供し、それを伸ばしていくことが大切になる。

(3) 小学校への入学が近づく幼稚園修了の時期には、皆と一緒に教師の話の聞いたり、(エ)したり、きまりを守ったりすることができるように指導を重ねていくことも大切である。さらに、共に協力して目標を目指すということにおいては、幼児期の教育から見られるものであり、小学校教育へとつながっていくものであることから、幼稚園生活の中で(オ)して遊ぶ経験を重ねることも大切である。

- ① 行動 ② 試行錯誤 ③ 学校教育
- ④ 協同 ⑤ 生きる力 ⑥ 幼児教育
- ⑦ 創造力 ⑧ 感性 ⑨ 学ぶ力

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
16	17	18	19	20

【4】 次の文は、「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」（平成29年3月 文部科学省）に述べられているものである。（ア）～（オ）にあてはまる適切な語句を①～⑨から選び、番号で答えよ。

1 教育上特別の支援を必要とする児童等については、学校生活だけでなく家庭生活や地域での生活も含め、（ア）に立って幼児期から学校卒業後までの一貫した支援を行うことが重要であり、その際、家庭や医療・保健・福祉・労働等の関係機関と連携し、様々な側面からの取組を示した（イ）を作成・活用しつつ、必要な支援を行うことが有効です。

また、特別な支援を必要とする子供に対して提供されている「（ウ）」の内容については、「（イ）」に明記し、引き継ぐことが重要です。

2 児童等に、障害の可能性が考えられる場合は、通常の学級の担任・教科担任は、決して一人で抱え込まないことが大切です。児童等の行動等の背景にある障害の特性について正しく理解し、教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援につなげていくために、（エ）やスクールカウンセラー等に相談してください。その後、必要に応じて、対象の児童等の対応について校内委員会やケース会議で検討し、（オ）な支援を得られるようにしていくことが大切です。

- | | | |
|------------------|----------|-------------|
| ① 組織的 | ② 長期的な視点 | ③ 短期的な視点 |
| ④ 個別の教育支援計画 | ⑤ 医療的 | ⑥ マニュアル |
| ⑦ 特別支援教育コーディネーター | ⑧ 合理的配慮 | ⑨ ソーシャルワーカー |

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
21	22	23	24	25

【5】 次の文は、「学校の危機管理マニュアル作成の手引」（平成30年2月 文部科学省）の「幼稚園等における留意点」に述べられているものである。適切なものを①～⑨から5つ選び、番号で答えよ。

- ① 朝や午後の預かり保育、降園後の施設開放、昼食時、プール、遠足（徒歩・バス・電車）などの様々な場面や時間帯を想定して避難訓練を行う。
- ② AEDや応急処置の研修は、体力に自信のある教職員が代表して参加できる体制をつくる。
- ③ 事故等が発生した場合の連絡の仕方・幼児の引渡しの方法については、幼児が園に慣れた1学期末に保護者と確認しておく。
- ④ 日々の登降園や家庭生活の中で、保護者が歩行・横断・自転車のルールやマナーのモデルであることを繰り返し伝える。
- ⑤ バスや自転車通園の保護者には、幼児自身の目や足で交通安全や不審者対応について確認する機会を意識して設けてもらうようにする。
- ⑥ 不審者侵入時は、複数の教職員で不審者を捕えることを最優先にする。
- ⑦ 保育中は園内の様々な場所に年齢の異なる幼児がいるため、どの部屋にどの組が何人避難しているか、教職員はどの幼児がいるかを確認して内線などで対策本部に報告し、園の全人員の安否を確認する。
- ⑧ 除去食の保管場所や、昼食時に座る場所に配慮する。また他児の弁当の中身を確認し、場合によっては食事をする部屋を別にするなどの対応を行う。
- ⑨ ビニールプールであれば、指導者とは別に監督者を配置しなくてもよい。

26	27	28	29	30
----	----	----	----	----

【6】 次の文は、環境教育指導資料【幼稚園・小学校編】（平成26年 国立教育政策研究所教育課程研究センター）に述べられているものである。幼稚園における環境教育の基本的な考え方として適切なものを①～⑨から5つ選び、番号で答えよ。

- ① 子供は、直接的・具体的な体験から、環境について多くのことを学び、生きるために必要なことを獲得していく。この意味で、まさに、生活の場が、環境を学ぶ場であり、学習の場である。
- ② 幼児期の子供は、環境について言葉で理解したり表現したりすることはうまくできないし、そのことをうまくさせようとして一方的に働き掛けても、あまり意味がない。
- ③ 幼児期に直接的・具体的な体験を多様に重ね、体験を通して身近な環境を学ぶことと、小学校や中学校での環境教育においての実感を伴った学習活動はつながりがない。
- ④ 幼児期からの環境教育の推進に当たっては、まず、園の環境や教育課程を見直し、園生活全体を通して幼児期の子供が自然や環境を学ぶことができる機会を十分に確保していくことが重要である。
- ⑤ 子供は自然に触れて遊ぶ中で、その大きさ、不思議さや美しさを感じ、心を揺れ動かす。自然との関わりの中で生まれる体験のみが、子供が本来もっている環境に対する感性を磨いていくことにつながる。
- ⑥ 幼児期からの環境教育の推進に当たっては、領域「環境」の内容のねらいのみを達成する指導を考えていく必要がある。
- ⑦ 生活を通じた教育においては、身の回りにある様々なものが教材として活用することができる。この場合に大切なことは、子供の気付きや発見に沿って教材を工夫して、子供の環境との出会いを確保したり、関わりを深めたりすることである。
- ⑧ 幼稚園における環境教育の展開には、教職員が協働して園の環境を整えたり、その下での指導を共有して指導したりする、園全体の教職員の協力体制は不可欠である。園内研修において、園内外の環境の実態も把握し、環境教育の進め方を話し合い、指導の課題を整理してその解決策を練ったり、その成果や課題について話し合ったりする機会を重ね、次第に園全体の協力体制が作られていくことに留意する必要がある。
- ⑨ 環境教育については、子供は園生活の中で十分に学んでいるので、家庭での生活とは、切り離して取り組むべきである。

31	32	33	34	35
----	----	----	----	----

【7】 次の(ア)～(オ)の飼育・栽培について、それぞれ適切でないものを①～④から1つ選び、番号で答えよ。

(ア) ウサギ

- ① 夏の暑さや湿気に弱いので、夏はケージを、直射日光の当たらない、風通しのよい所に置く。
- ② 水をやると死んでしまうので、与えないようにする。
- ③ 妊娠して約1か月で子供が生まれる。子供は3～4週間で乳離れする。
- ④ 歯の伸び過ぎをふせいだり、遊び道具としたりするためかじり木を入れる。

(イ) シマリス

- ① 毎日新鮮な水を入れる。
- ② シマリスのしっぽは大変切れやすいが、再び生えてくる。
- ③ 冬眠させると、栄養不足でそのまま死んでしまうこともある。
- ④ 木登りが得意なので、登りやすい木の枝を入れる。

(ウ) ニホンイシガメ

- ① 石や岩があるところを好むため、水槽内に岩を階段状に組み上げる。
- ② 水のきれいな場所を好むため、水質の悪化には注意する。
- ③ ふ化したての子ガメは、ゼニガメと呼ばれている。
- ④ 水草や野草などの植物性のエサしか食べない。

(エ) チューリップ

- ① 低い温度を経験しないと、大きな花が咲かないため、冬の間もそのまま外に出しておく。
- ② 冬の間も土が乾かないように、水をきちんとやる。
- ③ 植木鉢に植える場合、根がよく広がるように深く植える。
- ④ 花が終わったら、新しい球根が育つようになるべく早く子房を摘み取る。

(オ) ヒマワリ

- ① 土に60～70cmの間隔で2～3cmの深さに穴を開け、種を1ヶ所に4粒ぐらいまき、葉が出てきたらよく育っているもの1本を残して、間引きをする。
- ② 種をまいたら、芽が出たとき鳥に食べられないように、ざるやビニールなどのおおいをかける。
- ③ 苗の高さが30～40cmになったら、倒れないように支柱を立てる。
- ④ 種ができ始めたら、茎や葉が枯れる前に種を収穫する。

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
36	37	38	39	40

【8】 次の(ア)～(コ)の文は絵本の一節である。題名を①～⑩から選び、番号で答えよ。

- (ア)「ひめさま、これが おにのたからもの、うちでのこづちでございます。これを ふれば、どんな
ねがいも かなうと いわれております。 さっそく ふってごらんください」
- (イ) おばあさんは おちよんに、「せんたくに いてくるから、なべの のりを とられないように ぼ
んを しているんだよ。」と、いって、かわへ でかけて きました。
- (ウ)「さあ、おじいさん、めを あけてください。 わたしの うちに きましたよ。」 ねずみが そう
いうので、おじいさんは、めを あけました。
- (エ) おはやしに あわせて おどる おじいさんの、みぶり てぶりの しなやかな こと。
「ほ ほう。までよ。こりゃ くうには おいしい。みて たのしもう。」 おじいさんは、なにもかも
わすれて いい きもち。
- (オ) むすめが、「これから はたを おります けれど、おっている ところは、 けっして のぞかない
で くださいませ。」 と、いいました。
- (カ) かわへ こぎだした きの ふねは、ぎっちりこ。 ところが、どろの ふねは どろりんこ。すぐ
とけた。
- (キ)「わん わん。ここの つちを ほりなされ。」 いわれるままに じいさまが どっこいしょと ほっ
たら、ぴっかぴかの おおばん こばんが ざっく ざく。
- (ク) そんな ある ひ、あねさまは きこりに いうた。「ちょっと さとまで 行って きますので
るすばんを たのみます。でも、にばんめの ぐらは みないで ほしい。
この こと、きつと まもって くだされ」 そう いうと でかけて いった。
- (ケ) (かんのんさまに いただいた だいじな ものだが あんなに ほしがって いるのだから……)
こころの やさしい わかものは、えだごと その こどもに あげること に した。
- (コ) ふたりは もちごめを といで ふかして べったんこ すっこんこ、ちからもちを つきあげまし
た。そうして そのばん おほんに つきたての ちからもちを のせておいて やりました。

- ① おむすびころりん ② はなさかじいさん ③ したきりすずめ
④ わらしべちょうじゃ ⑤ いっすんぼうし ⑥ かちかちやま
⑦ こぶとりじいさん ⑧ うぐいすひめ ⑨ つるのおんがえし
⑩ ねずみのすもう

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
41	42	43	44	45
(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)
46	47	48	49	50

【9】 次の楽譜について、下の問いに答えよ。

著作権保護の観点により、
掲載いたしません。

(1) この曲の拍子を、①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 8分の3拍子 ② 8分の6拍子 ③ 4分の2拍子
④ 4分の3拍子 ⑤ 4分の4拍子

51

(2) 楽譜の (ア) の音符の長さは4分音符を1拍とすると何拍か、①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① 0.5拍 ② 1.5拍 ③ 2拍 ④ 2.5拍 ⑤ 3拍

52

(3) 楽譜の (イ) の記号の意味を①～⑤から選び、番号で答えよ。

- ① その音符をほどよく延ばして
- ② なめらかに
- ③ その音を目立たせて、強調して
- ④ その音の長さをじゅうぶんに保って
- ⑤ その音を短く切って

53

(4) (ウ) にあてはまる適切な伴奏の楽譜を①～⑤から選び、番号で答えよ。

①



②



③



④



⑤



54

(5) 楽譜の (エ) (オ) に適切なコードネームの組合せを①～⑥から選び、番号で答えよ。

- ① (エ) A (オ) G₇ ② (エ) Am (オ) G₇
- ③ (エ) A (オ) C₇ ④ (エ) Am (オ) C₇
- ⑤ (エ) A (オ) B^b ⑥ (エ) Am (オ) B^b

55

【10】 造形に用いる材料や用具について、次の問いに答えよ。

(1) 次のア～エについて記述が適切なものは①、適切でないものは②を選び、番号で答えよ。

ア 油粘土は、手に付きにくく繰り返し使うことができる。大きなものをつくったり大量に使用したりする活動には向かない。

イ アクリル絵の具は様々な材料に塗ることができ、水彩絵の具のように、にじみやぼかしの表現も可能である。耐水性であるため、屋外に展示する作品に適している。

ウ パスは、クレヨンよりもロウ分が少なく油脂が多いため、軟らかく色が混ざりやすい。プラスチックなどの面にも付着する。

エ はさみで円形を切る時は、刃先を使ってゆっくりと紙を回しながら切る。

ア	イ	ウ	エ
56	57	58	59

(2) 次の文は、あるテープについて述べたものである。この説明にあてはまる最も適切なものを①～⑤から選び、番号で答えよ。

伸縮性があり、色数が多いため装飾などに使用することもできる。例えば、ペットボトルに巻いて色違いの縞模様をつくったり、細かく切ってシールにしたりできる。

- ① スズランテープ (P.E.テープ) ② クラフトテープ ③ 布テープ
④ ビニルテープ ⑤ メンディングテープ

60

【11】 次の文は、「幼児期運動指針」（平成24年3月 幼児期運動指針策定委員会 文部科学省）に述べられているものである。（ア）～（オ）にあてはまる幼児期における運動の意義として適切な語句を①～⑨から選び、番号で答えよ。

(1) (ア)・運動能力の向上

(ア) は人間の活動の源であり、健康の維持のほか、意欲や気力といった精神面の充実にも大きくかかわっており、人が生きていくために重要なものである。

特に幼児期は、(イ) の発達が著しく、タイミングよく動いたり、力の加減をコントロールしたりするなどの運動を調整する能力が顕著に向上する時期である。この能力は、新しい動きを身に付けるときに重要な働きをする能力であるとともに、周りの状況の的確な判断や(ウ) に基づいて行動する能力を含んでおり、けがや事故を防止することにもつながる。このため、幼児期に運動を調整する能力を高めておくことは、児童期以降の運動機能の基礎を形成するという重要な意味を持っている。

(2) 健康的な体の育成

幼児期に適切な運動をすると、丈夫でバランスのとれた体を育みやすくなる。特に(エ) を身に付けると、身体の諸機能における発達が促されることにより、生涯にわたる健康的で活動的な生活習慣の形成にも役立つ可能性が高く、肥満や痩身を防ぐ効果もあり、幼児期だけでなく、成人後も生活習慣病になる危険性は低くなると考えられる。また、体調不良を防ぎ、身体的にも精神的にも疲労感を残さない効果があると考えられる。

(3) 認知的能力の発達

運動を行うときは状況判断から運動の実行まで、脳の多くの領域を使用する。すばやい方向転換などの敏捷な身のこなしや状況判断・(ウ) などの思考判断を要する(オ) は、脳の運動制御機能や知的機能の発達促進に有効であると考えられる。

- ① 運動習慣 ② 動作様式 ③ 身体能力 ④ 全身運動
 ⑤ 神経機能 ⑥ 戸外遊び ⑦ 運動経験 ⑧ 体力 ⑨ 予測

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
61	62	63	64	65

【12】 次の（ア）～（オ）の事項に関係の深い人物として適切なものを①～⑨から選び、番号で答えよ。

（ア）ドイツの作家。1960年31歳で初の児童書『ジム・ボタンの機関車大旅行』を刊行。翌年同書がドイツ児童文学賞を受賞。1973年『モモ』を刊行。翌年同書が再びドイツ児童文学賞を受賞し、注目を集める。1979年に刊行した『はてしない物語』も熱狂的な支持を得て、翌年ドイツ児童文学アカデミー賞を受賞。幻想的童話形式の中にみつめられる、時代への鋭い風刺と人生の真実に対する深く豊かな洞察が魅力となっている。

（イ）イギリスにおける幼児学校（infantschool）の創設者である。人間の性格の大部分は幼児期につくられるものであり、さらに、環境による影響が大きいという考えに基づき、幼児学校を創設した。幼児学校では、のびのびとした環境の中で幼児の自発的で自由な活動を重視した。書物や玩具を使わず、体育遊びを多くし直観教授や集団的な音楽活動をも取り入れた。この幼児学校の理論と実践は、主著『新社会観』（1812-13）に詳述されている。

（ウ）スイスの心理学者。子どもとおとなの思考構造の違いを研究し、子どもの思考の特徴として、まず自己中心性に基づくみかたや考え方をあげた。この特徴を示す子ども独自の世界観として、①アニミズム（あらゆるものに生命があると考える）、②实在論（あらゆるものがこの世に実在すると考える）、③人工論（あらゆるものすべてを人間がつくったものとする）を示した。また、行動を生じさせる下敷きとなる精神構造をシエマと呼び、発達はこのシエマの変換であると考えた。

（エ）フランスの啓蒙思想家、新教育運動の先駆者。代表的著作には『エミール』があり、これは世界的に反響を巻き起こした教育小説である。彼は合自然、「自然に従え」を教育の根本原理とし、自然主義の教育、つまり教育の目的も方法もともに自然でなくてはならないとしている。また、自然に先立って教育してはならないというのが、彼のいう消極的教育である。児童中心主義の立場に立ち、人間の自然的発達を5期に分け、注入よりは自然性を、言語よりは経験、直観を重んじている。

（オ）二葉幼稚園を創立し、幼児教育、女子教育に尽力した。兵庫県姫路市に生まれる。1890（明治23）年、東京女子師範学校を卒業。1894（明治27）年、華族女学校附属幼稚園設立の際、保母として赴任。この時、アメリカで幼稚園について学んできた森嶋峰（のち齊藤姓）と出会う。2人は、貴族、有産階級にのみ開かれた幼児教育を、通勤途中に見かける貧しい子どもたちにも施す必要性を感じ、附属幼稚園に勤務しながら二葉幼稚園を開園した。フレーベルの精神を基本とする保育を行った。

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| ① イソップ | ② オーエン | ③ フロイト、S. |
| ④ ピーボディ | ⑤ 野口 幽香 | ⑥ エンデ |
| ⑦ ピアジェ | ⑧ 赤沢 鍾美 | ⑨ ルソー |

（ア）	（イ）	（ウ）	（エ）	（オ）
66	67	68	69	70

